韓国・順天大学　短期留学報告

農学部・獣医学科・３年　（向田結愛）

〇留学先：（韓国）・（順天大学）

〇留学プログラム名：大学の世界展開力強化事業 STEP3 韓国派遣プログラム

〇留学期間：2026 年 8 月 11 日～2026 年 8 月 20 日

〇渡航時の学年：　3 年次

・留学に至った経緯について：
2025 年の夏休みに、SEKATEN の集中オンラインコースに参加しました。その中でも、韓国への訪問経験がなく、韓国の文化に興味があったため参加しました。

〇渡航前の手続について
・大学での手続について：
特にありません。保険や奨学金の手続きなど、国際連携課の方が案内してくださる通りに提出しました。

・留学奨学金の有無（　有　）
（奨学金名称）宮崎大学海外留学支援費

〇留学体験記：
＜派遣先の情報＞
　渡航費用は、飛行機代と前泊の宿泊費を合わせて約 6 万円でした。現地での生活費は、食事代やお土産代、現地での移動費などを合わせて約 4 万円でした。

宿泊については、大学の寮が使用できなかったため、順天大学が英語の通じるホテルを手配してくださいました。部屋は 2 段ベッドで、トイレとお風呂は共有でした。洗濯機があり、朝食も用意されていたため、快適に生活することができました。

　順天大学は山の近くにある広いキャンパスでした。大学の周辺には繁華街があり、食事には困りませんでした。キャンパス内には多くの建物があり、大学博物館では歴史に関する展示や、実際に発掘されたものを見ることができました。

授業では、順天大学で行われている研究について学びました。
畜産に関する研究や、湖の上に設置された太陽光発電施設など、地域の特色を生かした研究について実際に説明を聞くことができました。また、韓服や伝統工芸品などの韓国文化について学んだほか、麗水などの周辺地域ではケーブルカーや美術館などを訪れることが出来ました。

学生については、日本語学科の学生と交流する機会が多く、学生の多くが日本語を話すことができたため、交流中は日本語で会話することがほとんどでした。
日本語を学んでいる学生と実際に交流することで、語学を学ぶことの大切さを感じました。

今回訪れた順天は、落ち着いた雰囲気の地方都市で宮崎と同じような雰囲気でした。お祭りの期間中だったせいか、川沿いにはライトや灯籠などが設置されており、街を歩いているだけでも韓国らしい景観を楽しむことができました。

<派遣先で学んだこと>
今回の留学を通して、まず語学を学ぶことへのモチベーションが高まりました
。交流した学生の中には日本語を非常に流暢に話す人も多く、自分も外国語をもっと話せるようになりたいと感じました。一方で、英語は日本と同じようにどこでも通じるわけではありませんでした。そのため、現地の言葉を少しでも身につけておくことの大切さも実感しました。

また、実際に韓国で生活してみることで、日本との共通点の多さにも気づきました。
食事や街の雰囲気など、日本と似ている部分が多く、海外でありながら比較的過ごしやすいと感じました。一方で、韓服や伝統工芸、食文化など、日本とは異なる韓国独自の文化にも触れることができました。特に、儒教文化に基づく上下関係の厳しさや、飲み会でのルールなど、実際に現地の学生と過ごしたからこそ分かった文化もありました。

さらに、大学の研究施設を実際に見学できたことで、研究に対する興味も深まりました。
来年度から研究室への配属が決まるため、実際の研究施設や研究内容を見学できたことは、今後自分がどのようなことを学びたいのかを考えるきっかけになりました。

今回の留学では、韓国の文化や大学について学ぶだけでなく、現地の学生との交流や大学での研究施設の見学を通して、自分自身の語学学習や今後の大学での学びについて考えることができました。

〇今後、留学を希望する宮大生のみなさんへ
今回韓国を訪問して、英語だけでなく留学先の現地の言語、簡単な挨拶や自己紹介、お店で使えるフレーズなどを事前に覚えておけば良かったと思いました。簡単なフレーズがわかれば、現地でのコミュニケーションがより楽しめると思います。
また、eSIM や海外旅行保険、必要なアプリなど、現地で生活するために必要なものを事前に準備しておくと安心です。特に、電話番号を使ったアプリの登録は、現地では出来ないので注意が必要です。











